

Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和6年度 第1号 5月21日発行

4月を振り返りながら

校長 大久保 隆

1学期も大型連休が終わり、もうすぐ中間考査が始まります。生徒の皆さん、令和6年度の学校生活は順調にスタートされましたか？4月を振り返りながら、これからの学校生活を考えていきたいと思います。

私は、自宅がある西宮市から自動車で阪神高速道路北神戸線を利用して友高まで通っています。北神戸線は六甲山地の北側を走っているため、自然の移ろいを目に見ることができます。4月初旬から中旬まで、市街地の桜であるソメイヨシノが今年は長く咲いていたのと同様に、山中のヤマザクラも所々にアクセントのように咲いて、薄紅色の花が大変美しく映えていました。友高では、この頃に入學式や対面式、着任式や離任式が行われ、また、12日(金)にはクラス・学年の親睦を深めるための学年企画行事も行われて、新年度の雰囲気にも包まれました。4月中旬から下旬にかけては、六甲の山並みは新緑が映えるようになっていき、それは日に日に増えて、山は樹木でモコモコとしていきました。この頃には、23日(火)に須磨東高校との定期戦が行われました。今年も競技に出場した選手の皆さんは全力を尽くし、それらを応援する生徒の皆さんも楽しみながらも真剣に友高の応援をしていただいていたことが印象的でした。特に、アリーナで行われた、男女バスケットボールとバレーボールは、両校の生徒が勢ぞろいして、お互いに大きな応援を行っていただいていたこと、そして、今年は友高が総合優勝を勝ち取り、昨年度の雪辱を果たしたことは、大変嬉しく思います。この定期戦は、必ずや友高・須磨東高の伝統行事になっていくことと思います。

さて、生徒の皆さん、このような4月の中で、うまく友達づくりはできてきましたか？1年次生の皆さんは色々な中学校から集まり、クラス以外でも部活動にも入部して新しい人間関係が生まれていると思います。2・3年次生の人はクラスが変わりその中で新しい人間関係が生まれていることでしょう。もし、まだ友人ができていく状況がある人は、思い切って、自分から周囲に話かけてみてください。なかなか難しいことかもしれませんが、話してみると意外にうまくいくこともあります。「自分とは気が合わないかも。」と消極的にならず、少し自分から歩み寄っていくことも大切だと思います。

始業式でも話しましたが、人が生きていく上で友人とは本当に大切な存在です。ぜひ友高での3年間の生活で、生涯の友人を見つけてください。中間考査が終わると友高祭があります。皆さんがこれらの行事を十分に楽しみながら、しっかり学習もして有意義な友高での生活を送ってくれることを、心から期待しています。

🌸 離任・着任された先生方 🌸
先生方の新たな環境でのご活躍をお祈り申し上げます！



| お世話になりました！ 転出・退職（敬称略） | | よろしくお祈りします！ 転入（敬称略） | |
|--------------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| 教 頭 | 三原 慎吾（県立青雲高等学校） | 教 頭 | 若山 賀世（県立神戸商業高等学校） |
| 国 語 | 飛田 真人（県立尼崎小田高等学校） | 国 語 | 松下 依里（県立芦屋高等学校） |
| 保健体育 | 池田 大（県立神戸高等学校） | 保健体育 | 坂口 裕亮（県立播磨南高等学校） |
| 国 語 | 平川 沙貴（県立舞子高等学校） | 国 語 | 安室 奈千江（県立舞子高等学校） |
| 情報・商業 | 水谷 達也（県立加古川南高等学校） | 情報・商業 | 湯谷 洋子（県立神戸商業高等学校） |
| 国 語 | 高橋 ひとみ | 国 語 | 梅谷 昇平（県立伊川谷高等学校） |
| 英 語 | 川原 徹也（ご退職） | 英 語 | 荻野 秀謙（県立湊川高等学校） |
| 書 道 | 田中 由佳理（ご退職） | 書 道 | 増岡 俊亮（県立出石高等学校） |
| 理 科 | 中須賀 亮（神戸市立葺合高等学校） | 理 科 | 橋本 智美（神戸聴覚特別支援学校） |
| 理 科 | 仙頭 明奈（県立伊川谷北高等学校） | 理 科 | 志村 慎哉 |
| 英 語 | 青野 弘和（海外施設派遣） | 英 語 | 古家 恵子（県立神戸高塚高等学校） |
| 音 楽 | 樋渡 正衡（兵庫教育大学院派遣） | 音 楽 | 橋爪 万里子 |
| 事 務 | 加藤 仁人（兵庫県立図書館） | 主 事 | 中尾 翔利（県教育委員会） |
| 校務員 | 中村 勝利（県立兵庫工業高等学校） | 校務員 | 赤松 大吾（県立御影高等学校） |
| | | 事 務 | 郷門 美樹（県立伊川谷高等学校） |

3年次 課題研究Ⅱ 全体講演会

4月15日(月)に「スライドデザイン講演会」を実施しました。3年次課題研究Ⅱの1学期の内容は、各自が2年次課題研究Ⅰで取り組んだ研究をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行うことです。1回目の授業は、「スライドデザイン講演会」を実施しました。講師として、神戸芸術工科大学大学院博士課程の大嶋優希子さんにお越しいただき、「伝わりやすいプレゼンテーションスライドの作り方」を教わりました。

よい例と悪い例を比較しながら説明していただき、生徒たちはメモを取りながら真剣に聞き入っていました。6月の各ゼミ内で行う発表会に向けて、よいスタートが切れたと思います。



【生徒の感想】

- ・文字の大きさなど具体的に教えてくださったので、すぐに役に立てられると思いました。
- ・作るときの工夫の仕方がわかりやすかった。ルールを守って見やすいプレゼンテーションを作りたい。

2年次 課題研究 全体講演会



4月11日(木)の3時間目に、神戸大学大学院人間発達環境学研究所の林 創教授を講師としてお招きし、課題研究講演会を実施しました。

林先生からは、「そもそも研究とは何なのか」といった基本的なことから、課題研究の意義や取り組み方、テーマ設定の仕方についてスライドを使って分かりやすくお話していただきました。特に、テーマの見つけ方について詳しくお話を頂き、生徒自身が春休みの課題として考えて来ているテーマが「大きすぎるテーマ」になっていないか、「高校生として価値のあるテーマ」に当たるのかを見直し、修正する貴重な機会となりました。

1年次の「産業社会と人間」の授業で身につけたこと、今日の課題研究講演会で得たことを基にして41回生2年次の課題研究が始まります。

1年次 「産業社会と人間」 全体講演会

ハテナソン講演会

5月2日(木)、1年次の「産業社会と人間」の授業では、京都産業大学より佐藤賢一先生をお招きし、「自ら問いを立てる学び方を実践し、対話するハテナソン授業」と題したワークショップを行いました。

生徒たちは、日常から何気なく浮かんだ「ハテナ」に対して、互いに問いを投げかけ、議論や思考を深めていくといった「問い重ね」と呼ばれるワークを行いました。日常生活に溢れているどんな些細な「ハテナ」でも、問いをぶつけていくことで議論や思考が深まったり、いつもは話さない友達と活動することで、いつもの自分では気が付かない発見に触れ、視野が広がったことを実感できたと思います。



〈生徒の感想〉

- ・私は、講演を聞いて、思い込みや先入観にとらわれず、データに基づいた検討や判断をすることが大事だと学びました。今後は、いくつかの情報を手に入れた上で、全ての情報を鵜呑みにするのではなく、判断材料として参考程度に扱っていききたいと思います。
- ・今回の講演を聞いて、自分の中で思い込んで捉えてしまっていることがたくさんあることに気づかされました。例えば「問い」です。私は「問い」とは、「答えるもの」だと思っていました。しかし講演を聞いて、「答えを探すだけでなく、その背景や意図を探り新しい問いを立てるもの」という考え方があることを知りました。



新聞に関する講演会

4月26日(金)の産社の時間は、神戸新聞社より三好正文さんをお招きし、新聞に関する講演会をしていただきました。生徒一人ひとり全員にその日の朝刊が配布され、新聞記事の構成は逆三角形でできていることや、5W1Hは内容を伝えるための基本であること、新聞の読み方など様々な情報を教えていただきました。普段じっくりと読む機会がない生徒たちも、この時間はみんな新聞を広げ、記事を探していました。



〈生徒の感想より〉

- ・新聞の見出しに注目したことはなかったけど、ただで本文の内容がわかるように簡潔にまとめられていてすごいと思った。
- ・実際に新聞記者さんの話を聞いて、『情報』に対する向き合い方を改めたいと考えた。現在、インターネットやスマートフォンが普及し、情報化が進む社会では「正しい情報を読み取る力」が大切だということ学んだ。
- ・この授業を通して感じたことは、新聞って最近読む人が減っているけど、ネットニュースよりも最新の記事も載っているし、簡潔で分かりやすい文章なので、これから新聞を読んでいきたいと思います。